

ウイルス性慢性肝炎について

消化器科 中河 秀俊

1)ウイルス性肝炎

肝炎を起こすウイルスには A～G 型、TT 型などがあります。このうち **B 型**や **C 型**のウイルスに感染した人の中には慢性肝炎に移行し、肝硬変、肝臓がんを発症する人もいます。

2)B 型慢性肝炎

①感染経路

B 型慢性肝炎はほとんどが母子感染により起こります。3 歳以下の乳幼児期に感染すると免疫の仕組みが未発達なためウイルスが排除されず **B 型肝炎ウイルスキャリア**となります。

②自然経過・症状

B 型肝炎ウイルスキャリアの 80%以上は 20-25 歳ごろまでに一過性の肝炎を発症しウイルス増殖が極端に低下します。それ以外の 15-20%では慢性肝炎の状態となります。慢性肝炎が持続した場合、平均 45 歳で肝硬変になり、50 歳で肝臓がんを発症すると言われていました。また、肝炎が進行し、肝硬変の末期になるまで症状は出現しないため、**本人の知らないうちに病状が進行してしまう**ことが多い病気です。

③治療

B 型慢性肝炎あるいは B 型肝炎ウイルスキャリアと診断されたら、血液検査や肝生検（肝臓の組織検査）の所見を併せて、治療開始時期とその治療法を検討します。治療の目標は **ウイルス増殖が極端に低下した状態**にすることです。年齢や肝炎の状態によって下記のような治療を選択します。

ウイルス増殖を抑える

抗ウイルス薬：強い抗ウイルス作用にてウイルス増殖を抑えますが、完全に排除することはできず、内服を継続し続ける必要があります。長期にわたり内服した結果、耐性ウイルス出現の問題があります。

インターフェロン：ウイルス量が少ない人に有効です。免疫力を高めることでウイルスを排除しますが、一時的に肝炎が強くなるため、肝臓の病態が進んだ方には選択することができません。

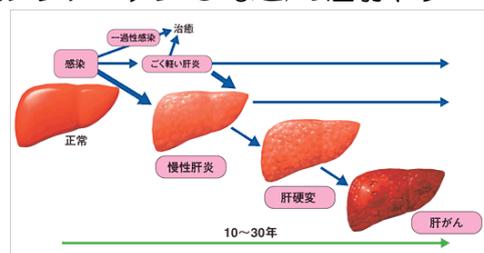
対症療法(肝庇護療法)

肝炎の鎮静化を目的としてグリチルリチン製剤(強カネオミノファーゲン C など)の注射やウルソデオキシコール酸(ウルソ)の内服を行います。

3)C 型慢性肝炎

①感染経路

C 型肝炎ウイルスは血液を介して感染します。感染経路としてピアスや入れ墨、覚せい剤などの回し打ち、不衛生な



独立行政法人  国立病院機構

National Hospital Organization

金沢医療センター

Kanazawa Medical Center

〒920-8650 金沢市下石引町1番1号

Tel (076) 262-4161 FAX (076) 222-2758



状態での鍼治療、また現在ではほとんどありませんが、C型肝炎ウイルスが発見される前の輸血や血液製剤、注射針の使い回し等が挙げられます。性交渉による感染や母から子への感染（母子感染）の可能性もあります。

②自然経過・症状

C型慢性肝炎は軽い肝炎のまま経過するケースもありますが、約7割は徐々に病気が進行し、治療しないと10～30年でその3～4割が肝硬変、さらに肝がんに移行するといわれています。肝硬変になると食道静脈瘤や肝性脳症などを認めるようになり生命にかかわる重篤な病態を呈します。また、末期になるまで症状は出現しないため本人の知らないうちに病状が進行してしまうことが多い病気です。

③治療

C型慢性肝炎と診断されたら、血液検査や肝生検の所見を併せ治療開始時期と治療法を検討します。

C型慢性肝炎の治療法には、C型肝炎ウイルスを体の中から排除して治癒を目指す原因療法と、肝機能を改善して肝炎の悪化を防ぐ対症療法（肝庇護療法）があります。

原因療法

インターフェロン：注射薬を継続的に（24週から72週）投与します。

リバビリン：インターフェロンと併用し抗ウイルス効果を高めます。

※ウイルスの遺伝子型・量・過去の治療歴などによって治療法を選択します

対症療法（肝庇護療法）

肝炎の鎮静化を目的としてグリチルリチン製剤（注射薬）やウルソデオキシコール酸が投与されます。



インターフェロン製剤の一例 ↑
↓ リバビリン製剤の一例

4)肝臓がん

ウイルス性慢性肝炎や肝硬変の経過中に肝臓がんが出現することがあります。

①検査

腹部CT/MRI・腹部超音波検査などの画像検査と血液検査のうち腫瘍マーカーを測定することで発見します。

②治療

一般的にがんの3大治療として手術療法・放射線療法・化学療法が挙げられますが、肝臓がんではこれに加え肝動脈塞栓術・経皮的治療・肝移植を含めた治療法から腫瘍の状態（大きさ・個数・転移の有無）と肝臓の状態（慢性肝炎か肝硬変か・治療に耐えられるか）などを総合的に判断し最終的な方針を決定します。



5)おわりに

ウイルス性慢性肝炎/キャリアと診断された、あるいは可能性があると言われた場合は肝硬変への進展や肝がん発症を予防・早期発見するために肝臓専門医の定期的な診察が必要です。